

テクニカルガイド Aタイプ

対象商品

- アルミ(標準)
- アルミ(厚手)
- アルミ(最厚)
- アルミ(マット)
- ナイロン(透明)
- レトルト三方袋
- レトルトスタンド袋



目 次

1. 塗り足しと文字位置について	P 3
2. デザインの配置について	P 4
3. 各種の推奨サイズについて	P 5
4. オブジェクトの分割について	P 6
5. 画像について	P 7
6. 白版について	P 8
7. カラーについて	P 9

1. 塗り足しについて



(memo)

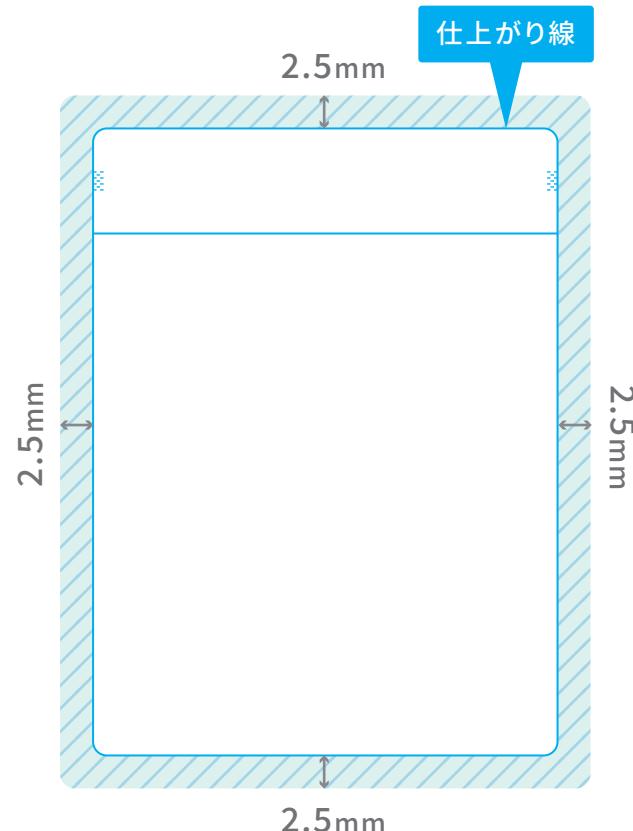
塗り足し：裁断時のズレで白フチを防ぐため、仕上がり線外側までデザインを伸ばすこと。

■ 塗り足し範囲

仕上がりいっぱいまで絵柄や背景がある場合

仕上がり線 より外に **2.5mm** の塗り足しの作成が必要です。

塗り足し範囲

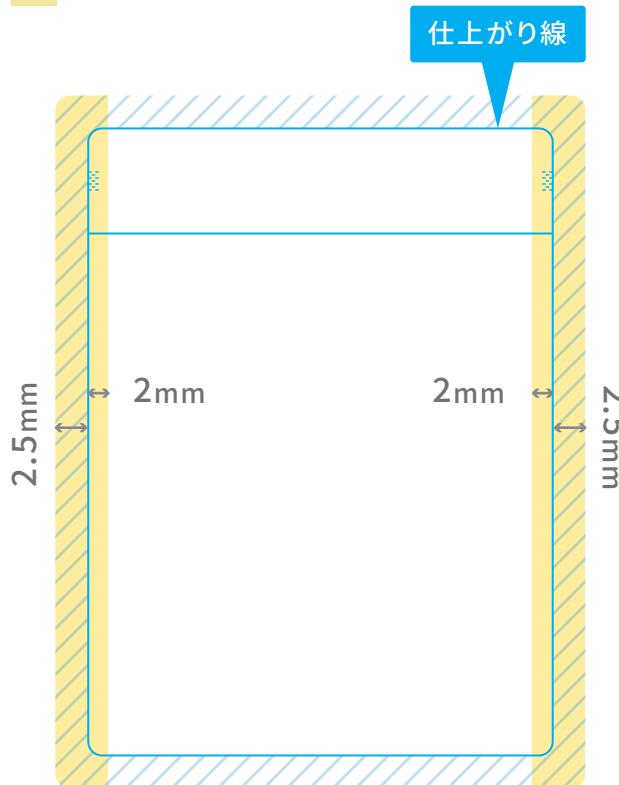


■ 左右の塗り足しの色・柄

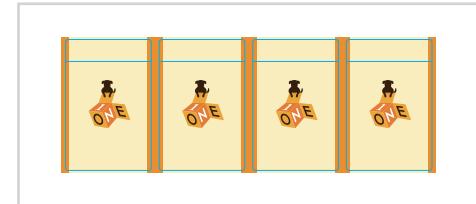
仕上がり線から左右内側 **2mm** と外側 **2.5mm** の範囲は

断裁の際に影響があるため、左右の塗り足しを**单一の色・柄**で作成してください。

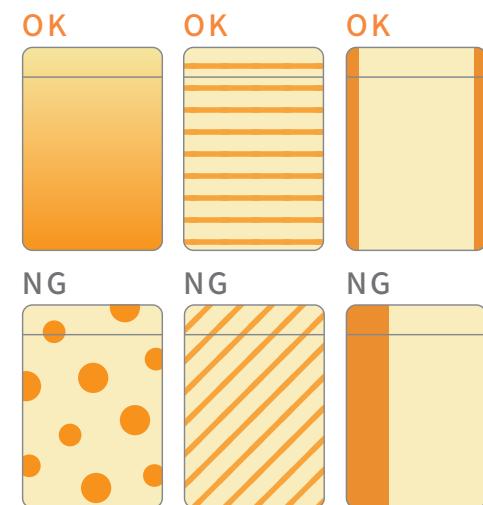
左右の塗り足し範囲



▼版下参考



▼デザイン参考



※Bタイプの商品については左右内側の塗り足しが不要となります。

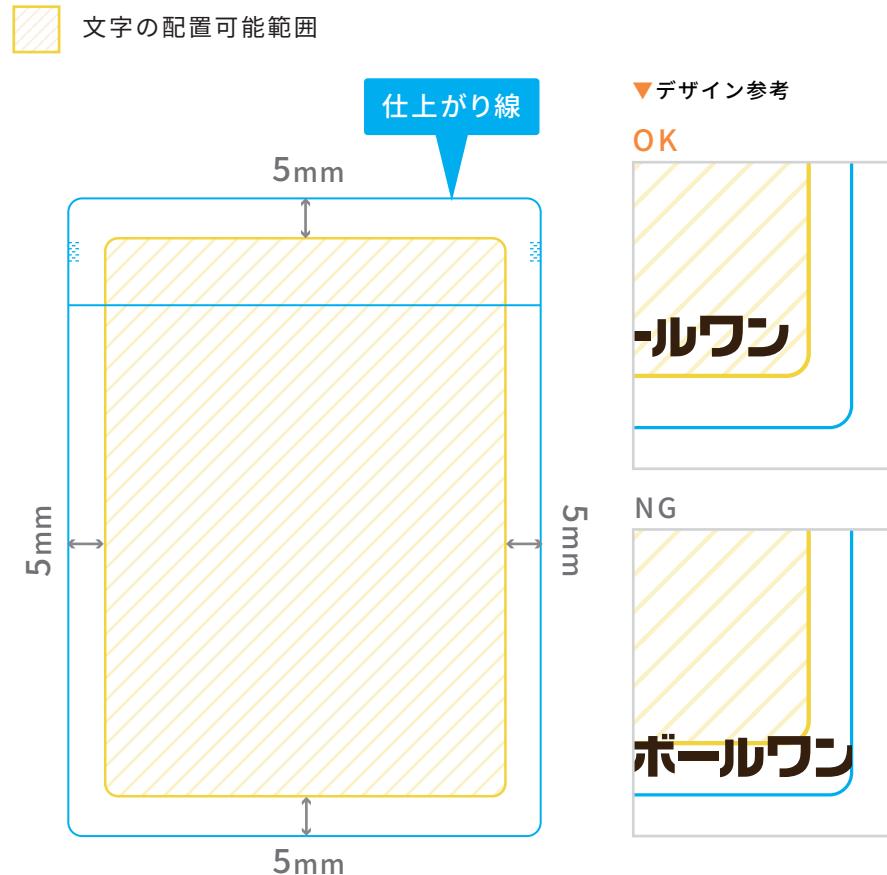
制作タイプ(材質)を変更される際は仕様が異なりますのでご注意ください。

2. デザインの配置について



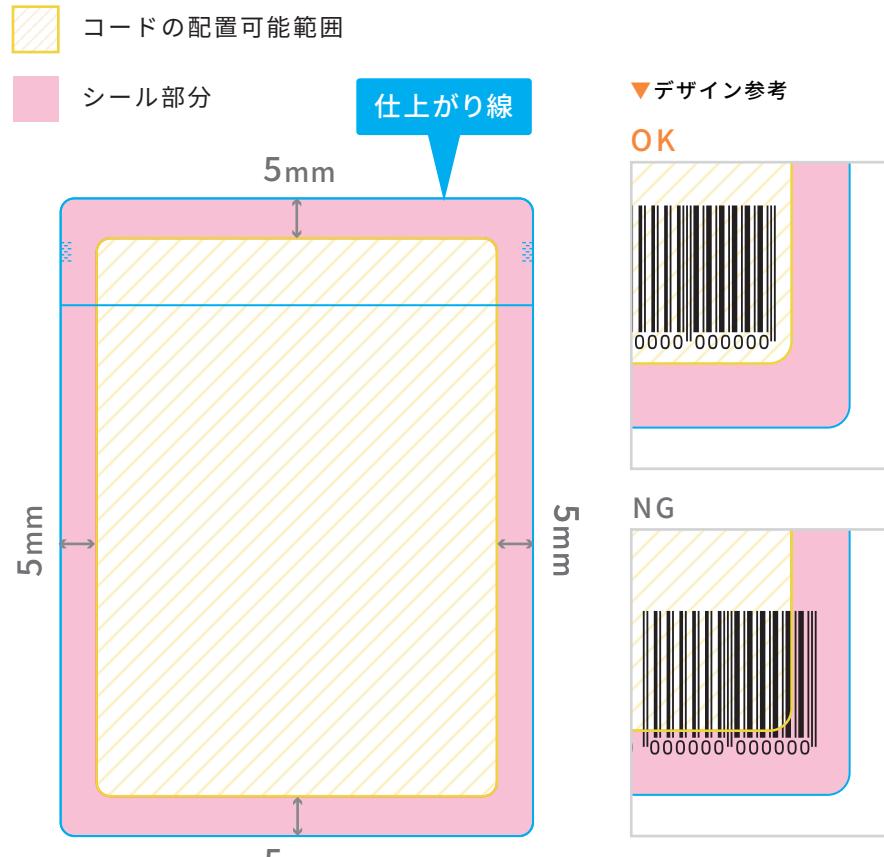
■ 文字の位置

テキストや絵柄は断裁時に切れてしまわないよう
仕上がり線 — より内側に **5mm** の範囲内に収めてください。



■ コードの位置

シール部にJANコードやQRコードが入ると読み取りづらくなるため
仕上がり線 — より内側に **5mm** の範囲内に収めてください。



3.各種の推奨サイズについて



■ 文字の大きさ

8pt以上推奨

参考 8ptのフォントサイズ

Point

小さいフォント(基準の6.5pt以下)でも可能ですが
潰れやすくなりますのでご注意ください。

■ 線の太さ

0.25pt以上推奨

参考 0.25pt

Point

塗りのみの直線は印刷に出ませんので、
必要な場合は線の設定を0.2pt以上に変更してください。

■ プラマーク

原則6mm以上

参考 6mm

Point

国内流通の場合はプラマーク必須です。
海外流通の場合は不要でも問題ございません。

■ QRコード

15mm以上推奨

参考 15×15mm



Point

コードの複雑さによってはこの限りではございません。
お客様にて読み取りテストをお願いいたします。

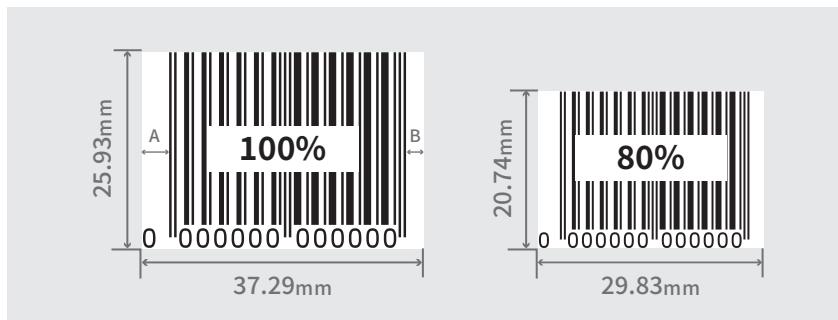
■ JANコード

横37.29mm×縦25.93mm 推奨

Point

国内流通に限り、基準から80%～130%の範囲で倍率変更が可能です。
海外流通の場合は変更不可です。

参考 【余白】 A:3.63mm B:2.31mm



■ トランケーションについて

最小10mm以上推奨

Point

倍率80%以上のサイズから、バーの高さを削るトランケーションが可能です。
海外流通の場合はトランケーション不可です。

参考



4. オブジェクトの分割について



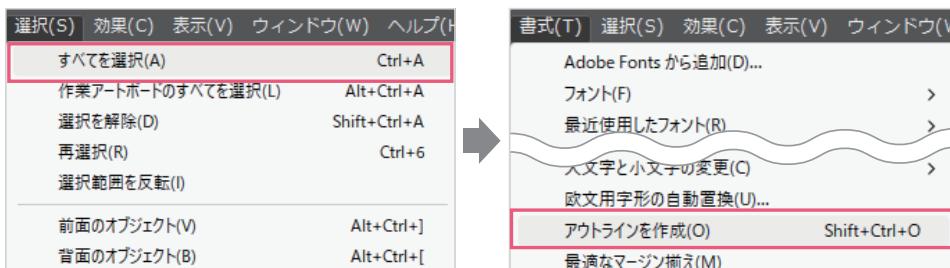
■ 文字のアウトライン化

配置されているフォントはすべて **アウトライン化** してください。
文字の崩れを防ぐために必要な工程になります。

(memo) アウトライン化：文字（フォント）を、図形（オブジェクト）に変換する処理のこと。

① すべてを選択

② メニューバー「書式」 > 「アウトラインを作成」



Point

アウトライン化されていない場合は再入稿となります。
レイヤーのロックや非表示で漏れがないようご注意ください。

チェック方法

文字のアウトライン

① メニューバー「書式」 > 「フォントを検索」

ドキュメントフォント欄にフォント名が
記載されてなければすべてアウトライン化されています。



■ パターンオブジェクトの分割

パターンが使用されている場合、**分割・拡張**を行ってください。
絵柄の崩れを防ぐために必要な工程になります。

(memo) パターンオブジェクト：繰り返しの模様を定義・スウォッチに登録したオブジェクトのこと。

① 該当のオブジェクトを選択

② 「オブジェクト」 > 「分割・拡張」



Point

パターンオブジェクトが分割・拡張されていない場合は再入稿となります。
レイヤーのロックや非表示で漏れがないようご注意ください。

チェック方法

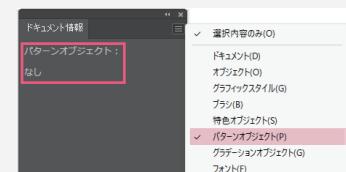
パターンオブジェクト

① すべてを選択

② メニューバー「ウィンドウ」>「ドキュメント情報」

③ 三から「パターンオブジェクト」クリック

「パターンオブジェクト:なし」と表記が出れば問題ございません。



5. 画像について



■ 画像の解像度

350dpi以上推奨

(memo)

解像度：画像を構成するピクセル（点）の密度。単位は dpi もしくは ppi。
数値が高いほど細かくきめ細かな表現となる。

解像度が低いと、粗くぼやけた印象の画像となります。
高すぎると、出力機器が処理できず品質が悪化します。

解像度350～400dpi程度、拡大率は**縮小70%～拡大130%**までを
目安として作成し、ご使用ください。

Point

元が粗いデータだと、解像度のみを変更しても粗さは改善しません。
解像度が十分でも粗い印象の場合、ご確認をお願いすることがあります。



72dpi



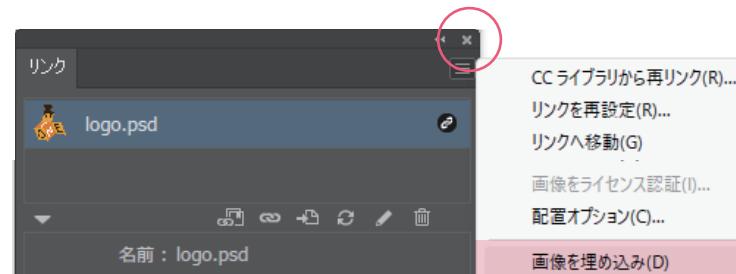
350dpi

■ 画像のリンクと埋め込み

画像は**すべて埋め込んでご入稿**してください。

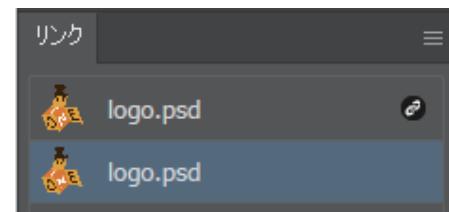
埋め込み処理について

- ①メニュー「ウィンドウ」>「リンク」
- ②リンクパレット上でリンク画像を選択
- ③右上より「画像を埋め込み」を選択



Point

埋め込まれていない画像には横にアイコン[●]が付きます。
アイコンが表示されていなければ埋め込み完了です。



埋め込み完了

6. 白版について

(memo)

白版：活用することで地の材質を生かした表現が可能。白版を敷くと白の上にデザインが乗り発色が良くなる。白版がない場合は、地の材質がそのまま表れる。

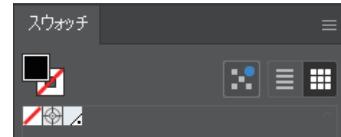
■白版の抜きについて

白版あるいは白版専用の特色「**HPI-White**」

白版なしは **抜き**で作成してください。

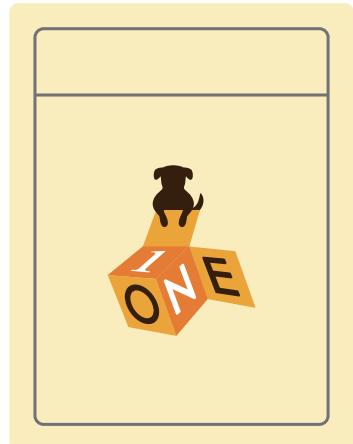
Point

白版専用の特色「HPI-White」は
スウォッチから選択できます。

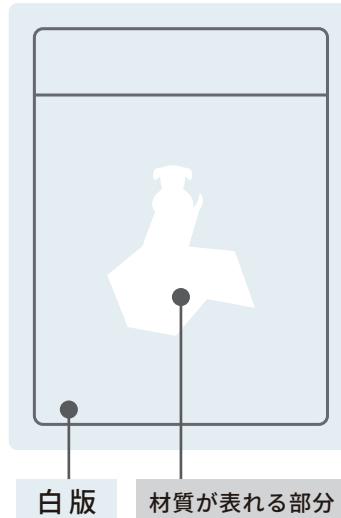


特色の分解は不可。また「HPI-White」以外の特色は使用不可です。

▼デザインイメージ



▼白版参考イメージ

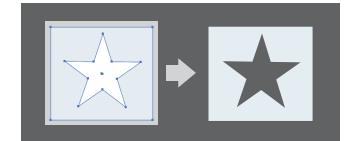


Point

白版はすべて白版レイヤーに入れてください。
全面白版の場合は、塗り足しと同じサイズで作成してください。

メタル調や窓にしたいとき

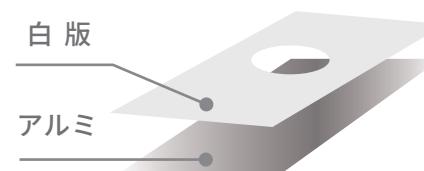
- ①オブジェクトを作成し、白版の上に配置し選択
- ②パスファインダー「前面オブジェクトで型抜き」
- ③完成した白版は全て選択し、グループ化
- ④メニューバー「ウィンドウ」>「透明」のプルダウンを『通常』→『乗算』に設定



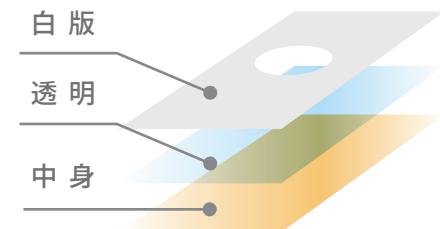
Point

白版の抜きは必ずオブジェクトを抜いて作成してください。
白ベタを配置しての抜きの指定は不可です。

▼アルミ素材の参考



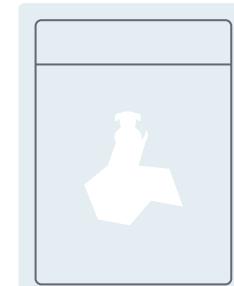
▼透明素材の参考



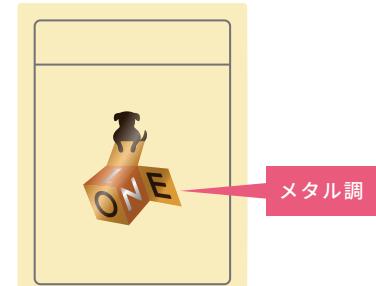
デザイン



白版



仕上がりイメージ



7. カラーについて

(memo)

カラー モード：コンピュータ上での色の表現方法。CMYK は印刷用（インキ）、RGB はモニター表示用（光）。
特色：既製のインキでは出せない色を再現するため、特別に調合されたインキ。

■ ドキュメントのカラー モードについて

特色はNG

白版「HPI-White」以外の特色は使用不可
特色が使用されている場合はプロセスカラーへ変換する必要があります。

- ①スウォッチパネルの特色スウォッチをダブルクリック
- ②カラータイプ「プロセスカラー」へ変更



(memo)

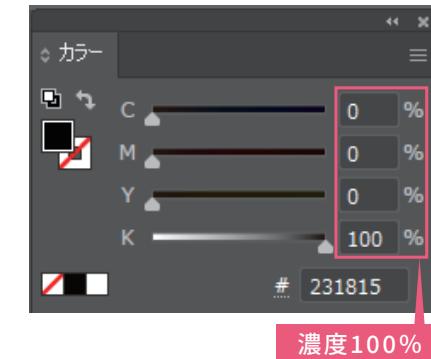
インキ濃度：CMYK のインキの合計濃度。

■ CMYKの合計は300%以内

レトルト対応の袋では **インキ濃度300%** を超えないようデザインを作成してください。

インキ濃度が高い箇所はラミネートの強度が低下する懸念があります。

OK



NG



カラー モードは基本的にCMYK

RGBで入稿された場合はCMYKに変換する必要があります。
色の変換に際して色の変化の大きさに注意してください。

パレット内の特色はすべて削除

スウォッチに「HPI-White」以外の特色がないか確認してください。

Point

白版用のスポット（スウォッチ）カラー「HPI-White」は
名前を変更したり、特色の分解は行わないでください。